

何故子どもは絵を描くか

——精神分析学的考察——

鈴木五男

§、幼児の絵の原点

1. 絵のはじまり

ぬたくり（錯画、落描）はよごし学習で描画の原点である。幼児の絵のはじまりはぬたくりで離乳期に生れる。何故かについて精神分析学者アイアン、サッテイは芸術科学宗教等あらゆる社会活動を含め、子どもの表現は母からの分離の回復への努力であるといっている。離乳による母からの完全分離の淋しさに耐えかねよごす、よごせば母はきてくれることを無意識的に子どもは知っているのである。このよごしをぬたくりといい、これが描画の原点である。

2、ぬたくりは描画の産声

離乳期にはじめるぬたくりはよごし学習であり遊びの要素が強い。これは個人の意志のない遊びである。動物的ぬたくりである。次に自己決定の線やマツスが生れる。これは知性的ぬたくりといえる。4才頃になると自己決定の線やマツスから何に見えるか形を発見するようになる。過渡期的ぬたくりといえるものである。これを経て自由な子どもらしい絵が生れる。

§、美術指導の原点は自由である

子どもの美術は完全な自由のもとに行われてこそ効果のあるものになる。題は自由発想で何を描いてもよい。描画材料はパス、絵具、色鉛

筆等何で描いてもよい。描画道具は筆に限定しなくてもよい。箸ペン、竹ペン、フェルト筆、縄筆、藁筆等子どもが選び作ったもので、好きな描法で結局好きな画題、すきな材料、すきな道具描法で描くのが子どもの真の絵である。

§、精神分析学と人間の生活

1、心不可得

これは道元が正法眼蔵に述べている。岡潔先生の本にどうしてそうするのかわからんとの説、人間の不思議さ善から悪へ悪から善へと急変する事についてもベルグゾンもショペンハウエル等の人達も気がついていたようである。これを心理学から解釈大成させたのがフロイドで無意識こそ精神生活の全面的基礎をなすものであるといった。スタンレーホールは意識と無意識との関係を氷山に例えた。海面上に出ているのを意識、海面下を無意識と言った。海面上を秒速40mの風が北へ吹いても、海流が南へ流れておれば氷山は南へ流れる。このように人間の行動は無意識に左右される。正に心不可得である。

2、抑 圧

人間はいろいろの抑圧をうけている。人間、社会、文明の抑圧に苦しめられている。抑圧とは一つと力が他の力に対して抑制作用をなし無意識に留らしめんとする働きをするものである人間生活には、満足、欲求不満、板ばさみが

あるが、欲求不満は合理的な解釈方法もあるが不合理な解釈法として攻撃退行補償逃避同一化合理化昇華投射等ある。子どものニーズが満足されない場合はニーズが抑圧されて無意識に押しこめられて子ども自身は意識しないが精神的なしこりーコンプレックスとなって無意識の中に蓄積する。抑圧されたニーズがあまりにも強裂であったり、頻度があまりにも多すぎると、個人的にも社会的にも何れは爆発する。抑圧は検閲があり、意識化しにくいので解釈は難しい。

抑圧は無害な創造へ通路をつけるのが望ましい解釈方法である。抑圧があるからとむやみに人をなぐったり殺されてはたまらない。他人に害を与えてはならない。絵なら殺人をしても暴力をふるっても法で裁かれることはない。

3、錯誤行動

人間には前述したように意識のみで行動しているのではなく、ど忘れ、どまちがい、偽病、夢絵等の錯誤行動がある。どさくさにまぎれて無意識（本心）がでる。ど忘れは本心であり忘れたかったのである。偽病は偽病ではなく無意識が病気をつくるのである。いやなところへ行った時にはほんとうに腹がいたくなるのである。

子どもの絵においても絵を描くどさくさにまぎれて無意識（本心）が出る。真の人間理解には錯誤行動が最も重要な要素となると考えられる。今までは錯誤行動の重要性に無知だった。

§、精神分析学と絵画表現

1、絵画表現は伝達の機能である

子どもの絵は心で見、知っているものを心で描くものである。こうして伝達するものである。

表現は伝達である。表現は他人を動かそうとする意思を包含する。だからそれは社会活動である。表現は単なる流出でもないし、知覚の必然的な産物でもない。それは本質的に他人から反応を求めている申し込みであるとハーバート・リードはいつている。したがってラブコールやメッセージや電話電報である。

絵は子どもの心をのぞく眼鏡である。子ども

の絵は見るところを描かずして知るところを描く。又子どもの経験の塊であり、子どもの生活の記録である。子どもの絵は単にすぎ去った行動や心意の表現でなく、毎日のように現在において絵で生活をつづけ、絵で希望を達し、絵で邪魔ものを排除し、絵で殺人をし、絵で嫉妬し而して絵でクリエイティブパワーという神通力を獲得しているのである。子どもの絵は伝達を受けとめ、人間形成に役立てるものである。

§、子どもの絵画の解釈分析

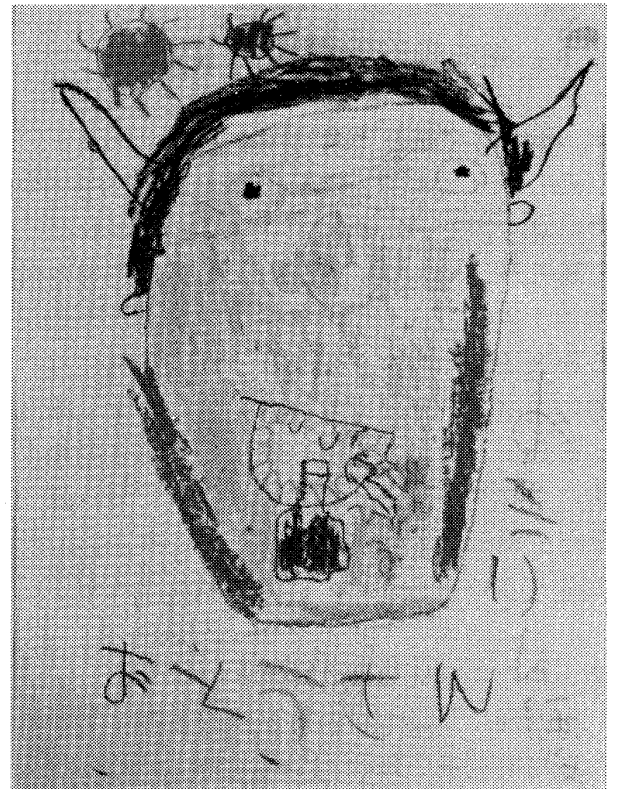


図1. 5才児 長男

図1 は精神分析学でいうエディプスコンプレックスの絵である。エディプスコンプレックスとはフロイドのような精神分析学派の人々がこの点を重視している。エディプスとは父を殺し母と婚したギリシャ悲劇の主人公である。簡単にいうと異性親に親しみ、同性親を斥けることである。女兒が母に反抗するのは、これもギリシャ悲劇のエレクトラが母を殺したことからエレクトラコンプレックスともいうがフロイドは両方をエディプスコンプレックスといつている。

図1 の写真は父の絵であるが、角が生えて

いる。口も大きく歯が鋭く攻撃敵意があらわれている。この子の父は権威が大きく欲求不満が無意識に押しこめられ抑圧されて父への敵意となったものと思われる。父の顔を描くどさくさにまぎれて検閲をのがれ抑圧がとび出して角になり、攻撃的な口になり、敵意を大きくあらわす鋭角的な歯となったのであろう。勿論これは意識ではなく、無意識的なものである。

子どもに父以上の男子になるよう指導昇華させることが人間形成として重要であろう。

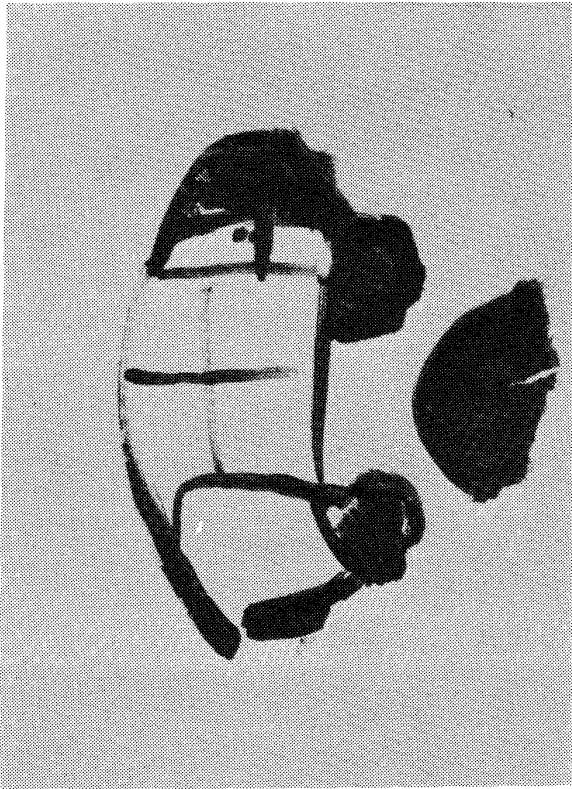


図
2

小1 長男

図2 は連続3枚のはじめの絵で、2枚目、3枚目も同じように自動車があり下に何かがある。3枚目は人がねている。一見して殺人願望の絵と判断し、すぐ家庭訪問しなさいと担任に指示した絵である。作者は一年である。登校中に祖父がよくバスで弟をつれて街へ行く。お土産を買ってきてくれるが、作者は心中おだやかでない。街で食堂へでも行ったのではないかと想像するのは子どもとして当然のことである。こんなことが何度もあったので抑圧され、祖父も弟もバスが転倒して死んでしまわんかいという願望一勿論これは問題である。これでは作者はおちおち勉強しておれないだろうと考え家

庭訪問し街へつれていくなら土旺か日旺に兄弟一緒にしてほしいと連絡した。それ以後作者はおちついて勉強するようになった。

図2も図3もエディプスコンプレックスとカインコンプレックスの相乗されたものである。カインコンプレックスは兄弟が一人の親を争う心のもつれで旧訳聖書にある兄のカインは天帝が弟を愛しているのをねたみ、殺したのからフロイドはカインコンプレックスと名づけた。弟アベルを殺したカインは罪のこわさにエデンの東まで逃げていき、そこでカインの一家は栄えたと旧訳聖書にある。スタインベックの名作「エデンの東」はここからきている。

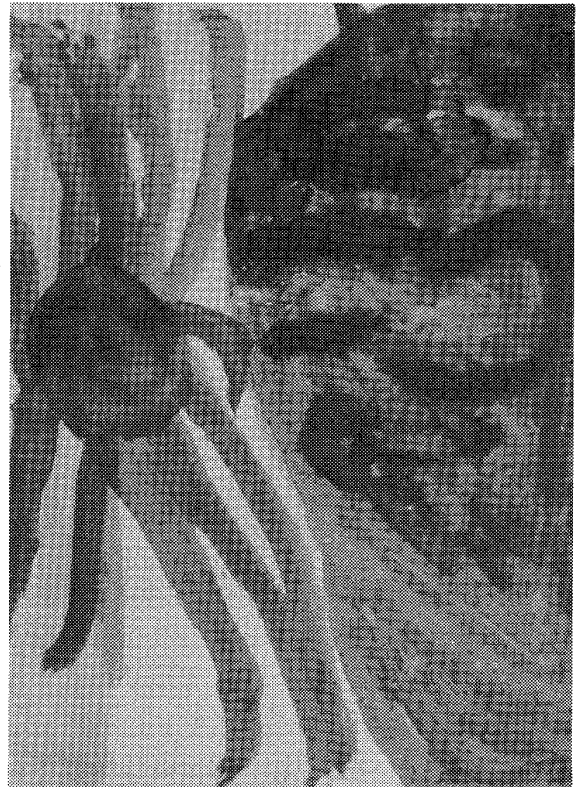


図
3

図3は緑の山に赤線があり山の上に大きい太陽が描いてある。下の子が生れ愛を奪われなかと心配でなかなか学校へいかず、ぐずぐずしていた。そこで父に叱られてまだ登校しないのでなぐられて登校し描いた絵である。父への反抗エディプスコンプレックスと下の子に愛を奪われなかとというカインコンプレックスの二つの抑圧が重なり合って描いた絵である。太陽は父の象徴である。太陽光線のストロークが太く強く、父への反抗敵意と下の子に愛を奪われなかとという心のもつれは相当強いものである。

そこでこの抑圧はよほど無害な創造へ通路つけなければ解決しないものと思われる。

図 4 の絵は妹が生まれた翌日描いたものである。黒い汽車が走っている前に女の子が立っている。精神分析学では箱自動車汽車船家は何を入れるものである。女性器、母を象徴する。したがって汽車は母である。その前に立っているのは明らかに妹である。母を象徴する汽車を斜に木が切断している。この様な絵は描かぬ

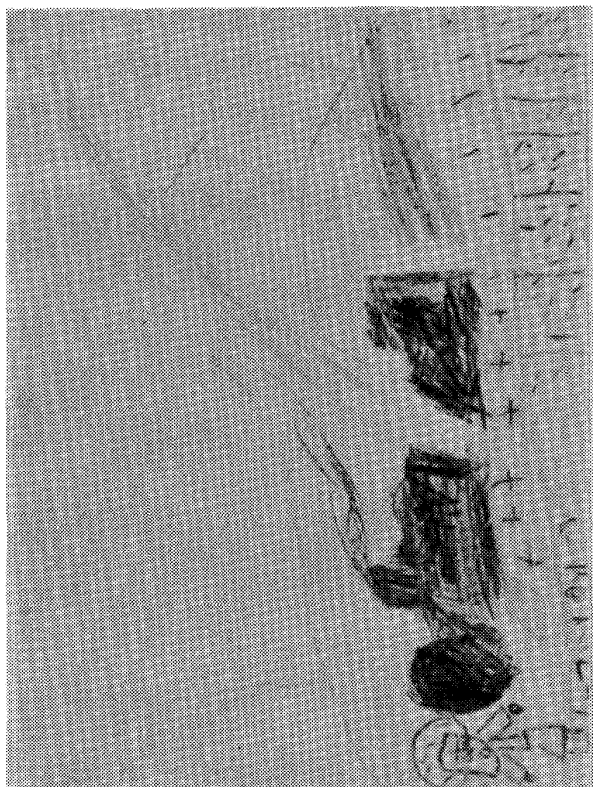


図 4

ものである。妹が生れ愛を奪われないかという心配は絵のどさくさにまぎれて妹を殺し、母を殺している。殺人願望の絵になったのである。それは無意識の問題であり精神分析学でしか理解できぬものである。

出産して殺人願望の絵を描く子は妊娠しても敏感にキャッチするものである。問題の根元は愛情である。図 5 はよく見れば直感の鋭い人はすぐ妊娠中の母の絵とわかる。丸は愛情要求であり、胎児らしきものもある。保母にこの子の母は妊娠していますねと行ってから愛情をあらわす丸の絵をつづけて何枚も描いた。出産したら黄色の線描きの家を紙一杯に描いた。家は母の象徴であり、黄は愛情要求の色である。母に愛情を求めていると分析解釈される。

図 6 も母妊娠中の絵である。青で母の象徴の家を描き白をぬいて中に胎児をあらわすものを描いている。鋭く緊張したストロークで束縛のマツスであり、制御された不安の青である。子どもにとっての妊娠は大変不安なものである。弟や妹がいてカインコンプレックスになるのは



図 5

5才児 長男

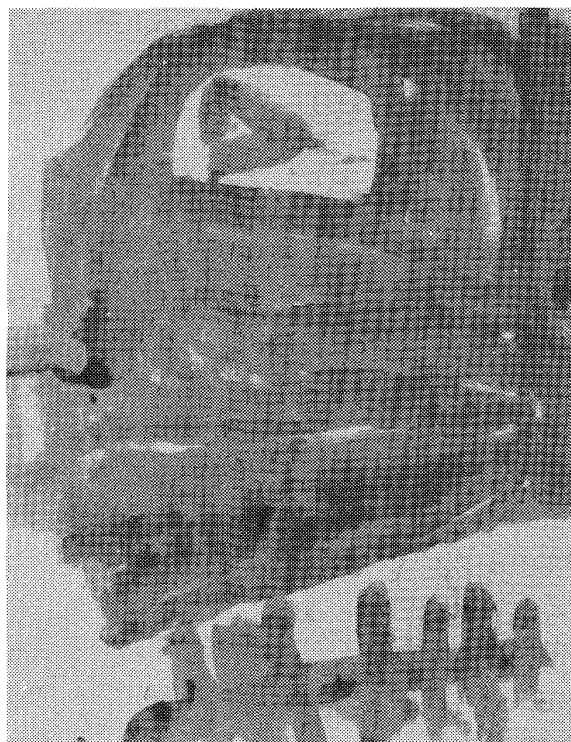


図 6

わかるが、妊娠直後絵にあらわれるというのは深層心理が人間理解に重要なことがよくわかる。

図 7 図 8 の絵はカインコンプレックスをあらわすものである。図 7 は恐龍の斗いでダイナミックな構図で力強く火を吹き必死に戦っている。茶色で伸び伸びとデッサンし右の 2 頭と左からの 2 頭の恐龍は紫色で不安をあらわし下左の 2 頭はピンク、左から右へ頭をのばしているのは黄緑である。吹いているのは赤でなく茶色である。デッサンも茶色、普通の子どもが赤で描くところを茶で描きその他にも茶色が多い。茶色を好む子はあまりにも早く大小便の躰をし、また泥やその他の汚れる材料で遊ぶことを制限し清潔教育を過度に強制され、汚れた欲望をもっていると思われる。家庭環境は祖母父母、高 2 の兄、高 1 の姉で末子であるのでひどいカインコンプレックスにはなりにくいがやはり深層心理には兄弟への反抗は皆無とはいえない。先生へのべたつきは愛情不足をあらわし茶色の多いのは生活に整理整頓のできないのにあらわれている。

図 8 は戦争の絵である。この家は近くでよく知っている。父母とも大学出で祖母がある。父は長男を厳しくスパルタ教育をし体罰も相当あったようである。エディプスコンプレックスが相当強くあったようで父は弟にやさしかったのでカインコンプレックスも強い、兄は弟をひどくたたいたりして、他人が見てもかわいそうであった。その抑圧は相当強いものであったと思われる。

本人がこの絵を描いているのを見ていた。すごい戦車だねとほめてやった。戦車の左に攻撃をあらわす鋭角的な赤い 2 本の角が出ており戦車は愛情欲求をあらわす黄色が多く、又左の下に黄色で線描で攻撃をあらわす角のある虎が描いてあったのですごいカインコンプレックスだなどと思って見ていた。ヘリコプターがきたよと黄色で描きすぐ爆破してしまった。次々とヘリコプターを描き爆破していった。この絵で抑圧は解消され発散されると思った。カインコンプレックスがある以上この絵からわかるように深層心理からの子どもの躰の原点が導き出されて

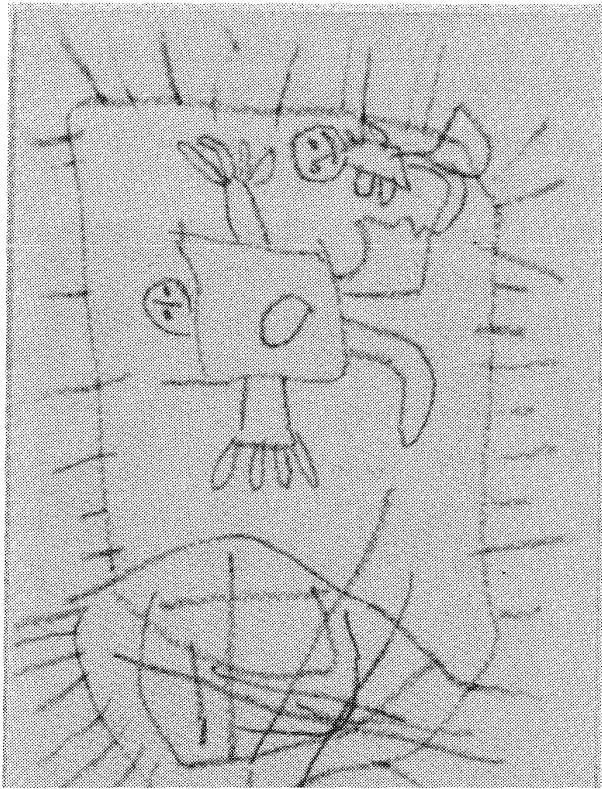
くる。兄弟姉妹くらべてほめても、叱っても、はげましてもいけない。百害あって一利はない。上べのみの短絡的な躰をする親は多いようである。本能的に兄弟は憎しみあうものだという深層心理の知識教養のある親は少いように思う。



図 7



図 8



5才児 長男 父母 離婚別居中

図
9

図 9 は母殺人願望の絵である。左側に赤で斜縦、縦、横線が乱雑に描いてある。右へ向いて四角いものが赤で描いてあり、外側へ向って青い線が四方へ向って描いてある。右側には赤い大きい人、下に子どもらしきものが描いてある。

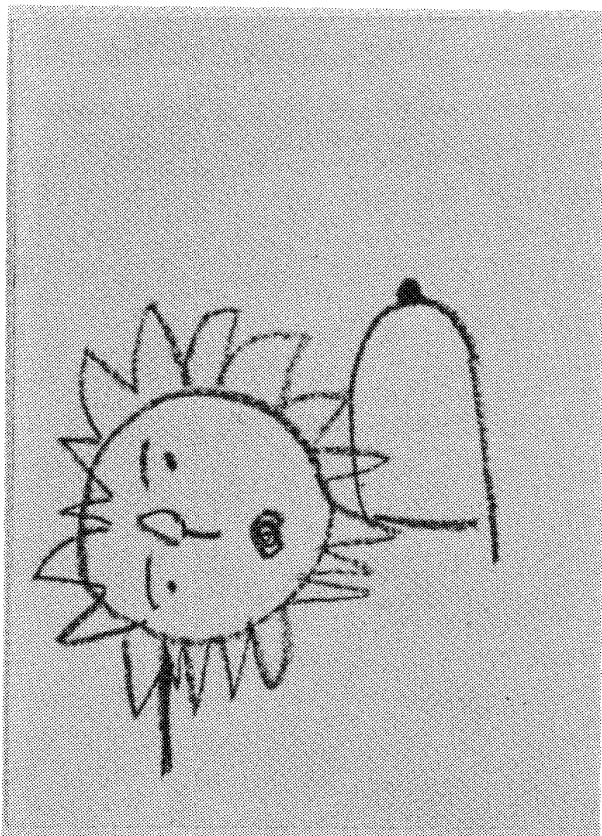
親は離婚して別居中で、作者にとっては悲しい環境である。子どもは母が引きとっている。父は子どもをとり返しに来るが、母は保育園に連絡して渡さない。

左の縦横の線は家とのことであり母をあらわす。四角いものは風呂ということで母の象徴である。おだやかでないのは青い線で風呂が燃えているということである。家もめっちゃめっちゃにこわされていて母を殺したい願望である。風呂も青い光ながら燃やしている以上殺人である。子どもにとってお母さんなんか大きらい死んじやえ、お父さんとお風呂に入りたいんだ。僕は父さんと暮したいんだという深層心理がうかがえる。教師として子どもの伝達の真意をうけとめても、うけこたえはできない。教育の限界を感じる。教師が子どもの身になり、愛してやりはげましてやるしかうつ手はなさそうである。

図 10はこの前にライオンの身体のような金魚を描き次にライオンの身体のようなうさぎを描いた。最後には前から見た乳房を大きく描いた。これは授乳が充分行われず、欲求不満があり、抑圧されていると思われる。その抑圧が絵のどさくさにまぎれて満たされなかった乳房を描いて昇華しようとしたものと分析解釈される。この子の母にきいてみたら家でもしょっ中乳房を描くとのことであった。授乳期に乳房への抑圧は大きなものであったろう。いじらしい気がする。ライオンの悲しそうな顔を見てやって下さい、作者自身の顔である。写真に掲載していないうさぎの目は訴えるようである。

教室、教師に自由がなければ、このような自由な絵は描かないものである。

乳房が描きたければどんどん描かせることである。ほかのものを描いてはといわぬことである。乳にさわってもよいといったら、いいわよと子どもの手を乳にもっていく愛が欲しい。



4才児 父母 兄18 姉10 本人

図
10



図
11

図11. 5才児 次女

図 11の絵は頭の毛は灰色、顔、手は薄茶、身体足は茶、ポケットと右にあるギザギザは黄、下はピアノだから灰と黒、口は赤である。一見して絵から感ずることは敵意攻撃反抗である。赤の大きい口に鋭い歯、その口から出た攻撃をあらわす鋭角の連続は何か叫んでいるようである。弾くピアノの上ののっていることから、母に行きたくないピアノのけいこにやかましく行けといわれ反抗しピアノなんか大きらい行かないわ。ピアノなんかこわしちゃえと叫んでいる口から出ているのは風船でなく鋭角の連続であるからすごい反抗攻撃であり、黒は母の恐怖と不安によっておこされた子どもの圧迫感を反映している。この絵は母とピアノへの反抗で母とピアノへの斗いであると分析解釈される。

図 12は見たとたん耳が紫であるのでこの子耳が悪いねという保母は耳鼻咽喉科へ通っているといた絵である。友人浅利篤君は紫で病気発見のみ研究した。紫は不幸な子が不幸な期間だけ又医者に行つて痛い目にあわされた子が後でつかった例がある。口が大きく上へまがっていて痛さをこらえているようである。日本に

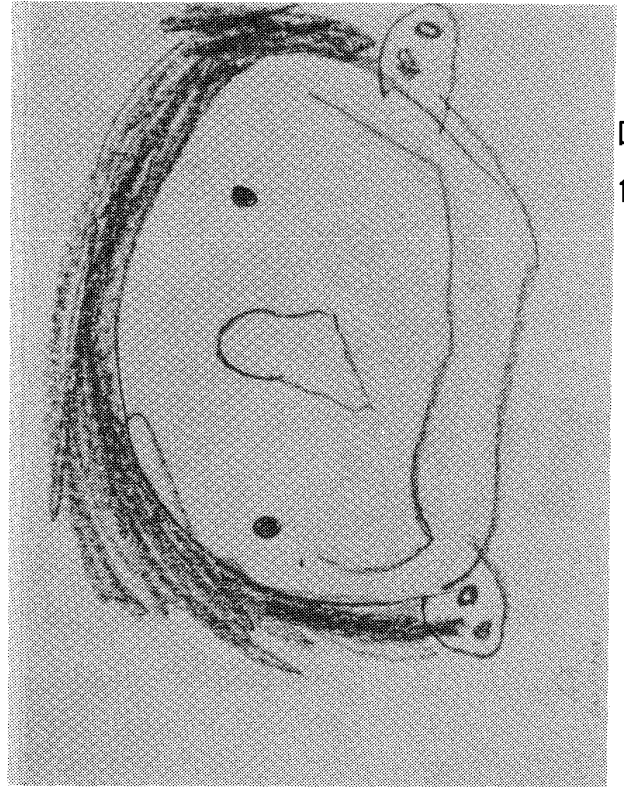


図
12

4才児、父母、本人、弟

は高貴と病気の二種の使い方がある。紫衣を賜うという史実もあるし、歌舞伎で病気の殿様の鉢巻は紫である。

富山の友人の实例、一年の教え子が母の自殺未遂を自ら発見した翌日描いた絵は無気味であった。はじめに薄い茶色でぬりその上へこい茶を斜に線で描き、その上へ紫の斑点が描かれている。アルシュラのいう不幸な紫の斑点、この絵は教室のどこにもなく雨の降る中庭の桐の木の下にくしゃくしゃになって落ちていた。

地中海沿岸の日光に充ちた快適な地球物理学的雰囲気の中で感情移入的な絵が発生した。これと正反対のシベリヤからアイルランドまで括っている亜北極帯の不快な厳しい雰囲気の中で抽象画が発生した。困惑した動物のように心細く支離滅裂に外界と直面する生物の如くどうしてよいかわからない時には感情移入の絵は生れず抽象画になるとボーリングは「抽象と感情移入」で述べている。母の自殺未遂に直面し、困惑しきってどうしてよいかわからぬ本人にとっては感情移入の絵は生れず抽象になったのであろう。真から抽象画を描いたら問題であろう

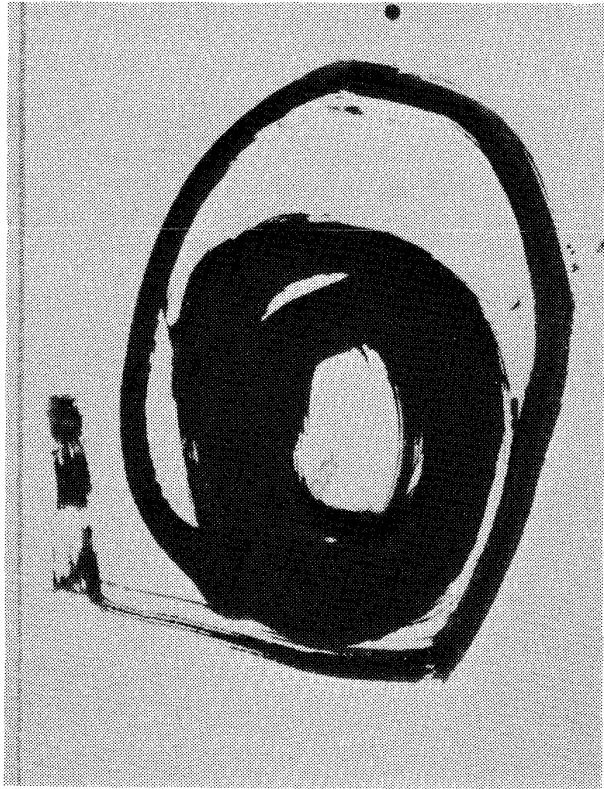


図
13

3才児 長男



図
15

5才児 父母 長女



図
14

3才児 次女 祖母 父母 長女 本人

図 13を見るとこれはまぎれもないうずまきぬたくりである。それも初期のものでない。筆跡を見ると筆を立て背中で描くという基礎を身につけている。中心から力強くとび出している線は外へのエネルギーが感じられ、いたずらがしたくなり自己決定が生れかゝった頃と思う。

図 14は13より進んだ精神発達を示している。左に核（マツス）があり曲線を描いて外へ元気よくひろがっている。13が一本であったのに対し二本になっている。いたずらがしたい、遊びにもいろいろな新しいことをやる。もっと探索欲が旺盛になると外への線がふえる。探索欲が出た子どもである。単なる母をひきつけようとする動物的ぬたくりより進んで自己判断による線やマツスで知性的ぬたくりへ進んだものである。この子は探索欲も旺盛にして、創造力もたくましくいたずらもするというよい子と思う。

図 15は前二点とちがったぬたくりに気がつく左右相称である。デカルコマニーで半折し片方に色で描き写すなら簡単にできるが描くのは難しい。この子は知的にすぐれているが、両方から愛せられたいという願望をもつものと思う。

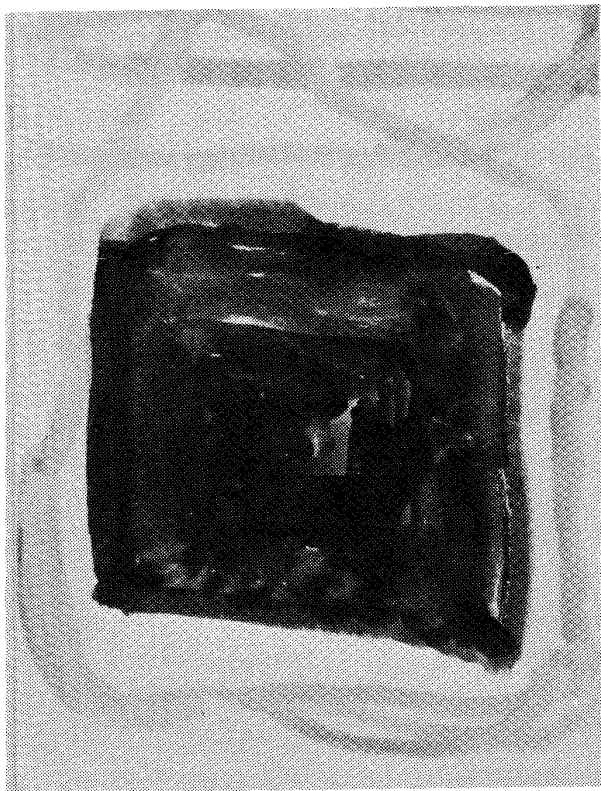


図
16

4才児 長男

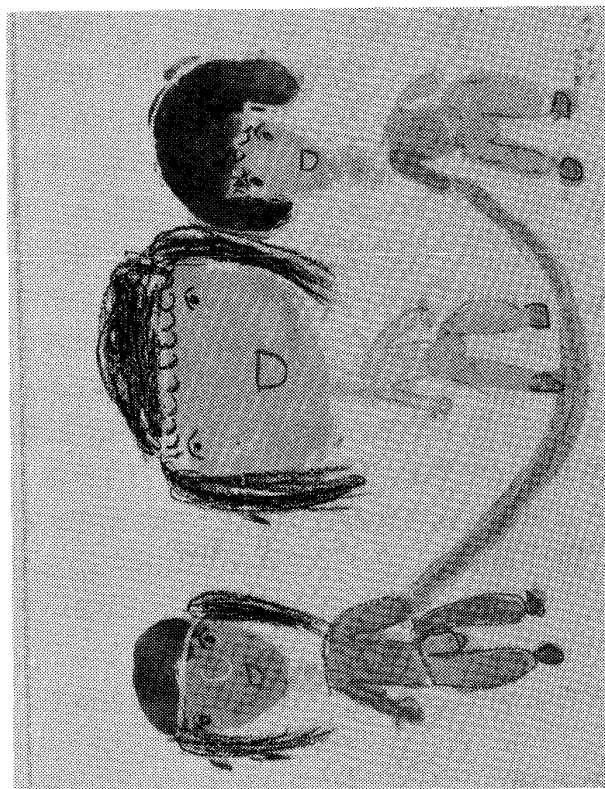


図
18

5才児 長女

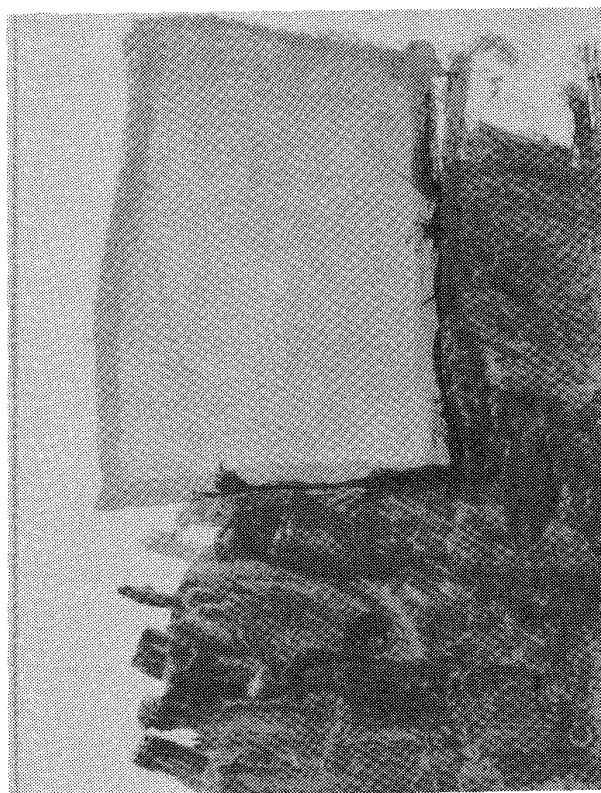


図
17

4才児 末っ子

図 16の絵は中央に藍色で四角が描いてある。がはじめは三角で鋭角的なものを描き、終に四角になったものである。するどく緊張したストロークで重い束縛された青のマツスで制御された不安の青である。これは抑圧されているか、過度に高い標準を強いられていると思われる。外の線は黄緑で伸び伸びしているが、力強いストロークを感じない。

これから考察すると、この子は親、先生に、ことばや、いたずらで実験してみたいと思っているように私には考えられる。この子にもう一つわかることは外部の経験が少く、歴史は浅いと思われることである。したがってこの子は強い外へのエネルギーに欠け一般的、常識的な親や教師にはよい子に映るものと思われる。

図 17は親が外で遊ばせなかった子で、外の経験不足で親が甘やかしてよい子にしようとしている。オレンジの線で四角を描き中は愛情の黄で下のマツスは緑でひとり遊びをし、いたずらができず、末っ子の特徴を示している。

図 18は切断コンプレックスの絵である。幼児期には男児はおちんこがあることに優越感を

もつと共に切断されないかと心配する。女兒はおちんこがないのに劣等感をもつと共に切断されたのではないかと思っている。兄嫁が笑って話したことがある。私には甥と姪がある。その姉弟が争っていた。弟がお姉ちゃんおちんこあらへんという姉が小さいのがあるわと言ったと、私は不思議に思った。私はおちんこがあることで優越感をもったことはない。幼児期のことで忘れてしまったのかもしれないが、女はあんなものだ位で記憶は定かでない。この絵は、私が講義した卒業生が指導したもので一寸みると動きはあるが何の変哲もない縄とびの絵であるよく見て驚いた。女の子であるのにおちんこがしっかり描いてある。研究会参加者が皆驚いたこの子はおちんこがないのに劣等感をもちおちんこがほしい願望が強かったのであろう。

まとめ

教育の殿堂を開く秘密の鍵は愛情と権威であると考え。現代の教育関係者はこの点が充分理解されていないように思う。その他古くて新らしく、新らしくて古いものに自由と統制、興味と訓練等あるが、こゝでは愛情にしぼる。愛情とは何かエロスの愛、アガペの愛なんてものではなく教室の中での愛のことである。それは子どもの内にひそむ無限の可能性に畏敬の心をもつことである。愛情とは合一とも理解ともいえる。合一とは子どもと一になることで子どもの身になってやることである。子どもの現象のみ見ず、そのよって来た家庭環境までわかってやる、子どもの言動の表面のみでなく、その原点である無意識までわかってやるのが真の愛情である。

無意識を把握する最も明確なものは、子どもの描く絵画である。絵画は無意識に蓄積され出せなくなった抑圧がほとぼしり出るから無意識はキャッチされる。こうなれば教育はほんものになり、子どもは幸せになる。

絵画表現は形を上手に美しく描くことでなく伝達の機能である。又絵は子どもの心理のタイプを発見する最も確実なものである。表現は伝

達であると同時に社会活動でもある。子どもからのメッセージでありラブコールであり電報であり電話である。それをきいたら、受けとめ関係者に働きかけこたえてやり社会活動してやらねばならない。これが美術による教育、美術による人間形成というものである。

文 献

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 芸術による教育 | ハーバート、リード |
| 2. 児童画の心理と教育 | 霜田静志 |
| 3. 児童と精神分析 | 霜田静志 |
| 4. 教育と精神分析 | 宮城音弥 霜田静志
南 博 佐藤 正 |
| 5. 自由からの逃走 | エンリッヒ、フロム |
| 6. 色彩の心理 | アルシュウラ
ハトウイック |
| 7. 抽象と感情移入 | ポーリンガー |
| 8. 幼稚園児 | 守屋光雄 |
| 9. 幼児の絵は
生活している | 宮武辰夫 |
| 10. 幼児の工作は
生活している | 宮武辰夫 |

(児童教育学科初等教育)